



千葉県議会議員

岩井 やすのり



1970 年生まれ 専大卒・早大院修了 4 期目現職(印西市・栄町選挙区)

栄町安食台 2-26-23-202 fax0476-36-7802 mail@iwai-y.jp

船橋市虐待死事件を検証

悔やまれる、児童相談所による一時保護解除判断

昨年7月に船橋市で発生した児童虐待死事件。転居を繰り返す家族に対し、児童相談所間の連携不足が事態の深刻化を招いたと見られています。

●亡くなる1年前から児童相談所が関与

令和5年7月に船橋市で亡くなったのは生後11か月の男児です。26歳の母親は、男児に暴行を加えて死亡させたとして、昨年7月に傷害致死の疑いで逮捕。8月以降、県、千葉市、船橋市はそれぞれに第三者委員会を設置し、児童相談所（以下、児相）の対応等についての検証を行っています。

今回の事案については、児童が亡くなる1年前の令和4年より児相が関わっていました。端緒は、母親が妊婦健診を受診しないまま出産していたことについて、病院から通報があったこと。家族が当時住んでいた千葉市の西部児相は「養育に不安がある」として、同年8月に児童を一時保護しています。

●「保育園通園」を満たさない児童を保護解除

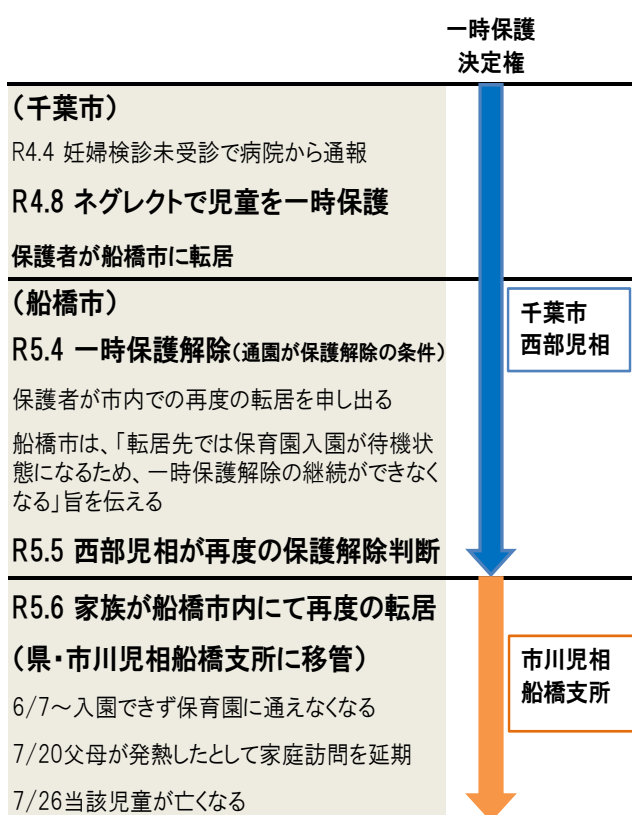
しかし、その後、家族が転居を繰り返したことで、対応が複雑化します。

一時保護措置を行った翌月の9月、父母が「養育環境を改善するため」として、千葉市から船橋市内へ転居したい（実際に転居したのは12月）と申し出。結果、児童については千葉市にて一時保護を続ける一方、家庭への支援については、船橋市家庭児童相談室へと移管することになります。

引き継いだ船橋市では、同家族を今後どのように扱うかの会議を開き、家庭訪問を重ねる等した後、令和5年4月、児童の保育園への入園を機に一時保護を解除しています。

ところがその直後の5月、家族から市内での転居をしたいとの連絡。当時、引っ越し先エリアの保育園はどこも待機状態で、引き続き保育園に通うことはできません。家族以外と接する機会となる保育園への通園は、一時保護解除の条件の一つであったため、船橋市家庭児童相談室は保護者に対し、「引っ越しをすると保護解除の継続が難しくなり、再度一時保護の措置となる」と伝えます。

船橋市児童虐待死事件の経緯



しかし、一時保護を決定する千葉市西部児相は、なぜか改めて一時保護解除と判断。一方、直後の6月に家族が船橋市内の別の場所に転居したことで、一時保護の決定権者は県市川児相船橋支所に移ることとなります。

児童が最後に登園したのは6月6日。7月20日に予定していた家庭訪問は、父母から、父母が熱を出していると言われたため27日に延期となる中、その日を待たず、26日に児童が亡くなったのです。

●県、千葉市、船橋市がバラバラに検証

本件の最大の問題は、児童が保育園に通園できなくなったにもかかわらず、一時保護の再措置が行われなかったこと。船橋市家庭児童相談室が保護者に対し、再度一時保護となると伝えていた一方、初期より関わっていたはずの千葉市西部児相は、改めて一時保護解除を決定してしまったのです。

また、県担当課は「県市川児相が引き継いだのは6/7からであり、当時、一時保護の決定権はなかった」としていますが、県が令和4年からの当該家族の経緯を知らなかったはずはありません。船橋市内での転居により



保育園に通えなくなった事情に鑑み、令和5年6月以降、県として改めて一時保護措置を行うことはできたわけで、県の責任も免れようがありません。

加えて、本事案に関わりのあった県、千葉市、船橋市による検証は、現在、バラバラに行われています。複数の自治体にまたがった事案については、全体像から分析、考察することが不可欠であり、関係自治体による合同検証の実施が強く求められます。

印西ごみ処理施設火災 全国で相次ぐリチウム電池火災

昨年 12 月末に発生した印西クリーンセンターの建物火災。被災施設の補修について検討が進められる一方、全国で相次ぐ、リチウムイオン電池混入を原因とする火災に、関係者は頭を抱えています。



●委託県外事業者での処理作業が開始

印西市内にある印西クリーンセンター（印西地区環境整備事業組合＝印西市・栄町・白井市で構成）で火災が発生したのは、12 月 27 日のこと。ベルトコンベアーなど「不燃ごみ」処理施設内の設備を広く焼失し、ごみ処理作業ができない状況が続いています。2 月中旬より粗大ごみの収集業務が再開となっていますが、これは委託した県外事業者での処理作業が始まったことによるものです。

●R10年には新施設稼働 施設再建は？

問題となっている、被災した施設を再建させるか否かについては、未だ方針の決定に至っていません。

印西クリーンセンターは、印西市内に令和 10 年稼働開始の新施設を建設中であり、現施

設を再建させたとしても、わずか 3 年余りしか使われないこととなります。一方、2 月から不燃ごみの処理を請け負っているのは民間事業者であり、通常より割高な処理費用となっていることは容易に想像できるようです。

事業組合では、施設の補修費用を見積もっている状況（3 月上旬時点）とのことで、「施設の再建」と「業務委託の継続」の双方をてんびんにかけ、慎重に判断していきたいとしています。

●コードレス掃除機や電動工具にもリチウム電池

さて、今回のごみ処理施設火災の原因は、不燃ごみ破碎施設へのリチウムイオン電池の混入とされています。リチウムイオン電池関連の火災は全国で相次いでおり、今年 1 月 3 日には埼玉県川口市内のごみ処理施設でも同様の火災が発生。また、令和 5 年に発生した都内ごみ処理関連施設火災 25 件のうち、リチウムイオン電池が原因であったものが 9 件と、最も多かったとされています。

衝撃により発火することがあるリチウムイオン電池は、モバイルバッテリーの他、スマートフォンやコードレス掃除機、電動工具などにも内蔵されており、気づかれないまま「不燃物」として出されてしまうことも少なくありません。クリーンセンター職員の手でチェック作業が行われているものの、人手には限りがあり、とても追いつかないと言います。

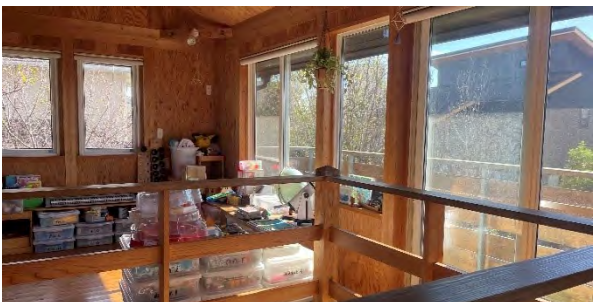
印西クリーンセンターでは、広報紙を通じて、ごみ分別についての啓発を重ねてきています。岩井からも、どうか一層の注意をお願いしたいと思います。



締切
間近

印西市内のフリースクール 施設移転に向けた支援募る

学校に通いづらさを感じるこどもたちが通う、印西市牧の原のフリースクール「びおねろの森」。受け入れ人数の増加を受け、市内での移転を計画しているところですが、市民からの心ある支援が頼りとなっています。



●手弁当運営で昼食代込 500 円/日

一昨年 11 月に訪れたびおねろの森は、印西牧の原駅からほど近い閑静な住宅街にある一軒家。今も代表が住む民家が使われています。20 畳はあろうかというリビングルームに足を踏み入ると、20 名余りの子どもたちがグループに分かれ、ゲームをしたりパソコンに向かっていたりします。陽光が降り注ぐ明るい部屋に手作りの温かいご

飯。フリースクールなら通えるという子どもの気持ちがよくわかるようです。

ところで、民間施設であるフリースクールの利用料は高くなりがちで、調査によれば入会金は平均 5 万 3 千円、授業料は月額 3 万 3 千円に上るとのこと。そんな中でも、びおねろの森では公立学校並みの負担で通えるようにと、利用料は昼食代込みで一日 500 円のみ。全日通所（週 3 日×4 週＝12 日）でも、利用者負担額はわずか 6 千円です。これは、運営スタッフの報酬額が月 3 千円（交通費支給なし）、曜日固定サポーターは交通費支給なしの無報酬と、まさに「手弁当」のボランティアスタッフに支えられているからこそなのです。

●子どもたちの貴重な居場所をなくせない

さて、これまで民家を使用してきたびおねろの森ですが、登録者は 70 人に迫り、受け入れが限界に達していると言います。個人宅であることから安定した運営が難しく、地域との交流も少ないため、学びの機会が閉ざされがちとのこと。そこで、同ス

クールでは「広々とした空間」「自然と触れ合い、好奇心を育める環境」などの条件を満たした適地を見つけ、移転を計画しています。

課題は 2 千万円以上かかる費用の捻出で、非営利活動が続けてきた同スクールで用意できる金額ではありません。元教員や看護師、心理学講師など、キャリアを積んできたスタッフが手弁当で支えるフリースクール。子どもたちの貴重な居場所がなくなることがないように、皆さんの心ある支援をお願いできたらと思います。



↑ QR コードから詳細についてご覧いただけます